

令和9年度農林水産予算額概算要求の概要と同概算要求の説明動画(p3)についてご案内いたします。

令和9年度農林水産関係予算概算要求の概要

令和9年度農林水産予算額概算要求は、『「強く豊かな日本」投資枠(4,272億円)』も活用し、総額3兆1,377億円(令和8年度当初比+8,421億円)を要求しました。※()内は令和8年度当初予算額

○日本成長戦略等を踏まえた潜在成長率の引上げ(『「強く豊かな日本」投資枠』活用項目)

- 農地の大区画化等、共同利用施設の再編集約・合理化等、スマート農業技術・新品種の開発、農業機械の導入、輸出産地の育成等を支援
〔農業構造転換集中対策 2,904億円+事項要求(494億円)〕
- スタートアップの大規模実証、フードテック企業の海外展開等の取組を総合的に支援し、フードテックへの官民投資を促進
〔フードテックの推進 502億円(1億円)〕
- 関係企業や生産者等が一体となった食農分野における環境負荷低減、気候変動への適応などGXの取組を支援
〔食農分野におけるGX投資拡大 48億円(-)〕
- 森林の集積・集約化、スマート林業技術の実装など川上から川下までの関係者の連携による生産性向上等の取組について、関連施策の優遇措置により国産材サプライチェーン強靱化を重点的に支援
〔「森の国・木の街」創造連携 イニシアティブ事業 83億円(-)〕
- 漁業経営の協業化・法人化促進、海洋環境変化に対応した漁業・養殖業、スマート水産業の推進、水産物サプライチェーン強靱化を支援
〔協業化等による経営基盤の強固な漁業経営体の創出 130億円(-)等〕

○農林水産業の構造転換による成長産業化及び食料安全保障の強化

Ⅰ 食料安全保障の強化

- 水田活用の直接支払交付金等の抜本的見直し、中山間地域等直接支払・多面的機能支払の見直し、新たな環境直接支払の創設
〔新たな水田政策の創設 3,565億円+事項要求(3,565億円)〕
- 総合的・計画的な「農林漁業教育」をはじめとした食育の推進などによる農林水産業・農山漁村に対する国民理解の醸成、飼養衛生管理の向上や分割管理の推進、総合防除の推進などの家畜伝染病、病害虫等への対応強化
〔消費・安全対策交付金 57億円(19億円)等〕
- 米・米加工品・米粉の需要拡大、麦・大豆の供給円滑化、種子の確保対策、野菜、果樹・茶、花き、薬用作物、養蜂等の生産基盤強化
〔米穀等安定生産・需要開拓総合対策事業 79億円(15億円)等〕
- 家畜改良や施設整備・機械導入等による畜産・酪農の生産基盤強化、食肉処理施設の新技术導入等の実証、和牛肉需要確保、鶏卵安定供給
〔緊急時液卵加工流通円滑化対策事業 20億円(-)等〕
- 堆肥の流通利便性向上等による国産肥料の生産・利用拡大、国産飼料の生産・利用拡大、飼料備蓄・流通合理化
〔肥料の国産化・安定供給 100億円(0.3億円)等〕
- 輸出産地形成、サプライチェーン構築、商流開拓の体制・機能強化、知的財産の保護・活用、安定的輸入の確保、国際協力の推進
〔輸出産地・事業者の育成・展開 190億円(58億円)等〕
- 合理的な価格の形成に向けた、コストや取引実態の調査、コスト指標の作成支援、フードGメンによる取引の監視等の実施
〔合理的な価格の形成 8億円(2億円)〕
- フードバンクの機能強化やこども食堂、物流の効率化等の取組への支援を通じた食品アクセスの確保
〔食品アクセス確保対策事業 6億円(0.2億円)〕
- 食品産業と農林漁業等の連携強化、食文化産業の中核拠点の創出
〔食品産業と農林漁業等の連携強化 73億円(1億円)等〕

2 農地・人材・技術の強化による農業の持続的・創造的発展

- 地域計画の実現に向けた農地バンクの機能発揮・協力団体との連携による農地集約化、新規就農者の育成・確保、担い手の機械等の導入 [地域計画に基づく農地の集約化291億円(174億円)等]
- 農地の大区画化等、水利施設の計画的更新、ため池防災・減災対策、情報通信環境整備など生産基盤・生活インフラの整備・保全 農業農村整備事業<公共> 4,375億円(3,365億円)等
- スマート農業技術の開発・供給、サービス事業者の育成・活動、重要品種の育成・種苗生産、農研機構の研究開発・機能強化の推進 [スマート農業技術活用促進集中支援プログラム 796億円(185億円)等]
- ゲタ・ナラシ、収入保険、野菜価格安定対策、マルキンなどの経営安定対策の適確な実施 [収入保険制度の実施(所要額) 532億円(327億円)等]

3 農村の振興

- 官民共創の促進による地域活性化、地域課題に応じた総合的な人材育成、農福連携、農泊など里業の推進、中山間地農業の振興 [農山漁村振興交付金 100億円(70億円)等]
- 強固な侵入防止柵など柵整備の強化、クマ・シカ・イノシシの捕獲対策の強化など鳥獣被害防止対策の推進とジビエ利用の更なる拡大 [鳥獣被害防止対策とジビエ利用の推進 199億円(100億円)等]

4 環境と調和のとれた食料システムの確立

- みどり認定者の取組定着・拡大のサポートの強化、有機農産物の広域流通に向けた産地形成等のみどり戦略の加速化、食品容器包装の切替え等のプラスチック削減・資源循環促進 [みどりの食料システム戦略推進総合対策76億円(6億円)等]
- 2027年国際園芸博覧会に向けた来場者、参加者等の安全確保、日本国政府出展等の運営、機運醸成、途上国の出展支援 [2027年国際園芸博覧会に向けた対応 113億円(81億円)等]

5 百年つづく「森の国・木の街」の礎の確立

- 森林の集積・集約化、林業適地での重点的な路網整備と再造林の省力・低コスト化、先進的な林業機械の導入、木材加工流通施設の整備、都市の木造化、特用林産物の競争力強化、木育・森業等の推進 [森林循環利用・付加価値創出対策 186億円(92億円)等]
- 新規就業者への体系的な研修、林業大学校で学ぶ就業前の者への給付金給付、林業経営体の安全診断などの労働安全対策等を推進 [森と木の人材育成・確保総合対策 57億円(49億円)等]
- スギ人工林の伐採・植替え等の加速化、スギ材需要の拡大、花粉飛散量の予測・飛散防止等の取組を推進 [花粉症解決に向けた総合対策 73億円(0.4億円)等]
- 国土保全や森林の集積・集約化等に資する間伐、主伐後の再造林、林道の開設・改良、林野火災対策、クマ・シカ等対策等を推進 [森林整備事業<公共> 1,653億円(1,271億円)等]
- 国直轄での集中的な復旧整備、予防治山対策による生活環境基盤の確保に資する緊急輸送道路の保全などの治山対策を推進 [治山事業<公共> 816億円(628億円)等]



6 海洋環境の激変に適応するための水産業の強靱化

- 都道府県試験研究機関等との連携、漁船活用型調査の強化等による効率的な情報収集体制の構築、AIの活用等による資源評価の精度向上、かつお・まぐろ等の資源管理、漁業取締りの実施
[資源調査・評価の推進、管理体制の構築120億円(54億円)等]
- 収益性の向上等に必要な漁船、漁具等のリース方式による導入、新規就業者向け長期研修の実施などによる経営体の育成、漁業経営安定対策の着実な実施
[地域を担う漁業者を後押しするための仕組みづくり 93億円(54億円)等]
- 持続可能な加工・流通システムの推進、拠点漁港等の流通機能の再編・強化や養殖生産拠点の生産力強化など漁港・漁場整備
[水産基盤整備事業<公共> 960億円(738億円)等]
- 水産物の輸出拡大、海業の振興、共同利用施設の整備、漁村環境の保全に向けた漁業者活動の推進
[海業の振興 12億円(3億円)等]

※農林水産省予算概算要求の詳細は、農林水産省ホームページのこちらのアドレスからご覧ください。

<https://www.maff.go.jp/j/budget/r9yokyu.html>

令和9年度農林水産省予算概算要求説明動画はこちらからご視聴いただけます。

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/budget/movie_r9yokyu.html

農林水産省

English | [このホームページ](#) | [サイトマップ](#) | 文字サイズ

標準 | 大きく

逆引き事典から探す | 組織別から探す | キーワードから探す

Google 提供

検索

会見・報道・広報 | 政策情報 | 統計情報 | 申請・お問い合わせ | 農林水産省について

ホーム > 予算、決算、財務書類等 > 令和9年度農林水産予算概算要求の概要 > 令和9年度農林水産予算概算要求説明動画

令和9年度農林水産予算概算要求説明動画

こちらのページでは、令和9年度農林水産予算概算要求に関する説明動画に加え、各動画に対応した参考資料を掲載しておりますので、是非ご活用ください。

項目から探す

新たな水田政策 | 環境バイオマス政策課 | 新事業・食品産業部 | 消費・安全局 | 輸出・国際局 | 農産局

畜産局 | 経営局 | 農村振興局 | 農林水産技術会議事務局 | 林野庁 | 水産庁



視聴したい項目を選択して視聴できます。ぜひご活用ください。

彩の国 農業人

～地域に笑顔の花を咲かせる、新規就農者～

星野 邦敏さん

「私は田んぼや畑の中で育ちました。今の見沼の風景は、耕作されていない農地が増え、まるで森みたい。次の10年を考えた時、地元で起業させてもらっている者として、地元のために何かやった方が良いのではと思った。」



ひまわり畑迷路の星野さん

そう語るのは、IT企業の代表を務める傍ら、埼玉県主催の「明日の農業担い手育成塾」などで3年間農業を学び、2026年5月に新規就農者となった星野さん。祖父母が植木農家だったこともあり、幼い頃から田園風景に囲まれて育ちました。耕作放棄地の増加によって荒れていく農地を目の当たりにする中で、地域農業の将来に危機感を抱き、農業の道へ踏み出されました。

現在、星野さんが注力している活動の一つが、埼玉県の公用地を活用した「ひまわり畑迷路」です。2022年から一般開放を始め、入場は無料。約1反5畝の圃場いっばいに咲くひまわりの中を歩けるこの企画は口コミで評判が広がり、天候の良い日には1日約2,000人が訪れることもあるとのこと。

ひまわり栽培は未経験からのスタートで、近県のひまわり畑を10か所ほど訪ねて栽培や管理方法を学びながら、試行錯誤を重ねました。迷路づくりにはドローンを活用し、上空から生育状況を確認しながらルートを設計。来場者には、ひまわりを一人2本まで持ち帰れるサービスも実施していました。



ひまわり畑全景

「成果をすぐに求める子供たちに作物はすぐには育たないこと、いわゆる『待つ』ことの大切さを体験で知ってほしい。」

サツマイモ栽培にも力を入れており、紅あずまやシルクスイートなどを栽培しています。圃場では、小学生以下を対象とした体験プログラム「あきないキッズ」を実施。子どもたちは苗の植え付けから収穫までではなく、さらに収穫したサツマイモを焼き芋として販売するまでの一連の過程を体験することができます。

星野さんは「苗1本が半年をかけてサツマイモになり、さらに焼き芋にして販売します。その過程を通じて、成果をすぐに求める子供たちに作物はすぐには育たないこといわゆる『待つ』ことの大切さと販売してお金を稼ぐことを体験で知ってほしい。」と語っていました。



あきないキッズのロゴ

今後は農業部門の法人化を目指すとともに、ハウスを活用した鉢植えレモン栽培にも挑戦したいとのこと。また、地域農業を将来にわたって持続させるためには、担い手の確保が欠かせないと意気込まれていました。

ひまわり畑に笑顔の花を咲かせながら、農業の新たな可能性を切り拓く星野さん。その挑戦は、これからも続いていきます。

編集：関東農政局 埼玉県拠点

〒330-9722 さいたま市中央区新都心 2-1 さいたま新都心合同庁舎2号館

TEL 048-740-5835

< 関東農政局HP > <https://www.maff.go.jp/kanto/>